

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
松本情報工科専門学校		平成18年2月20日		今井 秀幸		〒 390-0875 (住所) 松本市城西1丁目7番1号 (電話) 0263-33-8800			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 未来学舎		昭和61年10月30日		青山 織人		〒 390-0841 (住所) 松本市渚2丁目8番5号 (電話) 0263-26-5500			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
工業	工業専門課程	情報システム学科		平成24(2012)年度		平成30(2018)年度			
学科の目的	本校は、工学を実践する技術者として、社会から期待される知識と技術を持ち、どのような職場でも歓迎される人格を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。情報システム学科では、社会に貢献する情報技術を自分のものとし、情報システムを創り出すエンジニアや情報システムを効果的に利用できる人材の育成を目指す。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:ITパスポート試験、基本情報技術者試験、C言語能力認定試験、Webクリエイター能力認定試験、ワープロ検定、表計算検定、データベース検定、Microsoft Office Specialist など 中退率:1.8%								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,908 単位時間	720 単位時間	198 単位時間	990 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
80人	56人	0人		0%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		29人						
	■就職希望者数(D)		29人						
	■就職者数(E)		28人						
	■地元就職者数(F)		25人						
	■就職率(E/D)		97%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		89%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		97%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) システム開発・販売会社、機械系製造業 ほか							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無					
当該学科のホームページURL	https://www.mirai.ac.jp/mie								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)								
	総授業時数		1,908 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		24 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間							
うち必修授業時数		1,908 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		24 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
(B:単位数による算定)									
総授業時数		単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位							
うち必修授業時数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			1人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			1人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			1人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			0人			
	計					3人			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

情報システム分野における専門人材育成に必要な基礎から応用・実践までの一貫した教育を施すため、業界企業等の外部人材を活用し、より実践的な教育課程編成及び授業内容を改善する。そのため、学校と業界企業等が参画する教育課程編成委員会を設置する。委員会での協議事項について、教務部で検討した結果を以後の教育課程編成及び授業内容に反映することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は教務部の下に置くものとする。なお、学科のカリキュラムについては教育課程編成委員会での審議決定事項を尊重し、当校教務部において最終決定するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 吉保	一般社団法人 信州オープンビジネスアライアンス 理事	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	①
相澤 斉樹	アースシステム株式会社	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	③
赤羽 達史	松本情報工科専門学校 情報システム学科	-	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年11月28日 16:00～17:10

第2回 令和6年 3月14日 16:10～17:10

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

生成AIについて意見交換を行い、ソリューションを提供する側は顧客より半歩先にいかなきゃいけないという助言をいただいた。使いこなしについて教育するために、まずは教員側が積極的に使用し情報の収集を行うようにしていくことにした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科において、より実践的かつ専門的な職業教育を行うために学校と企業・業界団体等が講師契約を締結し連携する。情報業界の人材育成ニーズに沿った教育課程に基づき、外部講師による実践教育の機会を提供し、業界での即戦力となるべく人材の育成を目的として、知識と技術の向上を図ることを企業等との連携に関する基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

プログラミング技術と仕事の進め方・心構え等の職業観を育成するために、実践的なコーディング技術、チーム作業のポイント、報連相の重要性を指導に含む内容とする。学生の学修成果の評価は、企業講師によるテストや課題の評価を踏まえて、教職員と連携して行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
プログラミング実習	実践的なプログラミング技術の修得と、また、それを通じて仕事の進め方や心構え等の職業観を育成することを目的とする。プログラミングのコーディングを通して考え方や機能の実現方法を身に付ける実習を中心とする。	アースシステム株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、教職員に対し、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に関わる職務の遂行に必要な知識又は技能を修得させ、その遂行に必要な能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。教職員に研修を計画的に受講させるために、年度末に次年度の研修希望を提出させるものとする。

情報システム学科においては該当分野の技術的な変遷が速いので、実践的かつ専門的な能力を維持するために必要な知識、技術、技能などについて実施される。関係団体、職能団体及び企業等が実施する研修、セミナー、各種展示会(業界動向調査)等に積極的に教員を参加させる。これらにはインターネットを活用した研修やセミナーも含まれる。さらに、指導力の修得・向上等の研修にも参加させることを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 情報処理安全確保支援士 実践講習 連携企業等: 独立行政法人 情報処理推進機構
 期間: 令和5年5月13日 対象: 赤羽
 内容: 課題1 想定リスクと助言 課題2 対応・対処と助言

研修名: 情報処理安全確保支援士 オンライン講習 連携企業等: 独立行政法人 情報処理推進機構
 期間: 令和5年5月15日～18日 対象: 赤羽
 内容: 期待される役割と知識、システムライフサイクルプロセスとセキュリティ対策、インシデント対策

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: コミュニケーション研修 連携企業等: 長野県専修学校各種連合会
 期間: 令和6年3月19日 対象: 矢野
 内容: ～“聴く”を大切にしながら、相手も自分も伝えたいことを伝えあえる～ 「コーチング」の手法

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 情報処理安全確保支援士 オンライン講習 連携企業等: 独立行政法人 情報処理推進機構
 期間: 未定 対象: 赤羽
 内容: 情報セキュリティに関する技術から運用まで

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 新任教員研修会 連携企業等: 全国専門学校教育研究会
 期間: 未定 対象: 榊原
 内容: 新任教員研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、自己点検評価表を策定し、先ず教職員がそれぞれの部署で自己評価を実施する。そこで作成された自己点検評価表の適性度を学校関係者評価委員会により点検・評価する。当該委員会の議論及び意見を基に作成した「学校関係者評価報告書」を学校長が再点検の上、次年度の学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域活動
(11) 国際交流	特に記載なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

就職してからいかに長く続けていくか、「内定がゴールになりがちで働く自分をイメージできない。続く続かないは意識の違い」というご意見をいただいた。学生の卒業後3年間手紙を送っている学校があると聞いたので参考にしたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中村 孝司	一般社団法人 長野県自動車整備振興会 松本支所 支所長	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	企業等委員
赤羽 史彦	トヨタカローラ南信株式会社	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	企業等委員
中村 吉保	一般社団法人 信州オープンビジネスアライアンス 理事	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	企業等委員
相澤 斉樹	アースシステム株式会社	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	企業等委員
東海林正也	株式会社ホンダカーズ信州	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日(2年)	卒業生 (同窓会長)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.mirai.ac.jp/mie> 【情報公開】ページ

公表時期: 令和6年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目に基づき、学校の概要、目標及び計画、各学科等の教育、教職員、キャリア教育・実践的職業教育、様々な教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財務、学校評価について、公益法人として関連団体・業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

発信方法としては、主にホームページにて行うものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.mirai.ac.jp/mit> 【情報公開】ページ

公表時期: 令和6年7月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム学科) 令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		一般教養	就職活動時に必要であり、社会人として身に付けるべき一般教養を学習する。言語や数学、時事問題を中心に扱う。	1後	36	1		○		○		○		
2	○		プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備から発表までを行い、堂々と発表ができることを目標とする。またスライド作成ツールの使用方法を修得する。	1後	36	1	△	○		○		○		
6	○		情報ストラテジー	情報処理技術者試験のストラテジー系に分類される分野であり、企業活動、法務、経営戦略、システム戦略について修得する。	1前	63	2	○			○		○		
7	○		ネットワーク	ネットワーク、インターネット、Webのテクノロジーを学び、OSI参照モデルとプロトコル、ネットワーク設定について理解する。	1通	39	1	○		△	○		○		
8	○		プログラミング	構造化プログラミングができることを目標とし、変数、配列、関数、オブジェクトについて理解する。	1・2通	200	7	○		△	○		○		
9	○		プログラミング実習	企業連携を行う科目であり、現場で行われている実践的なプログラミングについて実習を通じて経験し理解する。	1前	24	1				○	○	○	○	○
10	○		情報処理試験対策	情報処理技術者試験または類する資格試験の検定対策を行う。	1通	126	4		○		○		○		
11	○		データベース	データベースの理論を学び、データベースソフトの利用方法を修得する。データベースの検定取得を目標とする。	1・2通	164	6	△			○	○		○	
12	○		3次元CAD	製図に用いられるアプリケーションソフトである3次元CADの使い方を修得し、3次元の物体をコンピュータ上に構築する。	1後	72	2	△			○	○		○	
13	○		デジタル回路	電子制御の基礎的知識とそのプログラミング技法を学ぶ。回路図が作成できプログラムを目的に応じて変更できることを目標とする。	2通	103	4	△			○	○		○	
14	○		Webサイトデザイン	HTML言語と編集ツールを用いた、Webページのデザイン手法を修得する。また画像素材を加工する技法について学ぶ。	1・2通	168	6	△			○	○		○	
15	○		Webアプリケーション	動的なWebサイトを実現する技術であるWebアプリケーションについて、その仕組みと作成方法を修得する。	2通	133	4	△			○	○		○	
16	○		デザイン・マルチメディア	マルチメディアコンテンツを用いたプログラミングや、イラストや動画等のマルチメディア素材を作成する手法について理解し、ツールの操作方法を修得する。	2通	100	3	△			○	○		○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報システム学科) 令和6年度															
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
17	○		先端技術・人工知能	先端技術として人工知能のプログラミング等を実践し、その技術の理解と適用方法について修得する。	2 後	51	2	△		○	○		○		
18	○		卒業研究	これまで学んだ知識と技術を応用し、数人のチームでテーマを持って研究や制作に取り組む。協同作業、進捗管理、発表技術の向上も目標とする。	2 後	175	6			○	○		○		
合計					18 科目		1908		単位時間(62 単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 62単位以上の単位取得	1学年の学期区分	2期
履修方法：【必修科目】62単位	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。